

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◆◆◆ No.0528 ◆◆◆

19/04/03

【 4月相場、今年は「ドル高・円安」が有利か!? 】

「経験則の観点から1年で一番動く月」ーとしていた3月相場は、月間変動幅2.43円にとどまり、今年で一番の小変動に終わった。まったくの期待外れだったと言ってよい。月初に112.13円まで上昇し、ドルは年初来高値を更新するも、勢いが続かなかった。そうした状況を踏まえ、今回の当レターでは恒例となっている経験則を参考にした4月の月間見通しをレポートするが、その前段階として、先週レポートしたように「期末を挟んだ、3月半ばから4月半ばにかけての相場変動も要注意」であることを、まずは認識していただきたいと思う。

◎唯一の懸念は「10連休」となるGW、決め打ちはリスクが高いとの見方も

4月相場について、最初に1990年以降昨年まで過去29年間の星取表を指摘すると、13勝16敗で、やや円高有利な状況となっているものの、それほど極端に偏っているわけではない。特徴と言えるほどではないだろう。

むしろ、一般的には「名実ともに新年度入りすることで、生保など資本筋からの外債投資が活発化。需給的にはドル高・円安有利」ーなどと考えられているが、過去の経験則からすると、必ずしもそうとも言えないようだ。少なくとも方向性という点に関してはニュートラル、上下どちらに動いても不思議はないという結果だった。

しかし、調べてみると、4月相場には別に、重要なポイントが2つある。うちひとつは、先週のレポートでも簡単に報じたように、「3月と4月の価格変動はおおむね逆方向に動くことが少なくない」こと。とくに2000年以降は例外と呼べるケースが稀であることも非常に興味深い。実際に、3月と4月のドル/円の月足を比較してみると全19例中16例までが的中、それも2003年以降2009年までは7連勝中を記録していたし、その後一度途切れたあと、2014-18年と現在5連勝中だ。そして、先週終わった今年の3月相場はと言うと、小幅ながら陰線引け。つまりドル安・円高で推移したことからすると、足もとの4月相場は逆方向の動き。ドル高・円安が有利であるのかもしれない。

そんな4月相場の2つ目の特徴は「一年間のなかで1月に次いで年間の最高値 or 最安値のいずれかを付ける公算が大きい」ことだろう。ちなみに、1月については1990年以降昨年までの29年間で11回がそのパターンに合致しているが、4月は同様に29年間で6回記録している。また、4月につける「ドルの高値 or 安値」は単純に年間の最高値もしくは最安値となるだけでなく、それが結果として「歴史に残るヒストリカルレートになる」ケースも少なくないことも、参考意見として指摘しておきたい。

ー前段まで話を終わらせても本当はよいのだろうが、今年は4月末から5月にかけてのいわゆるゴールデンウィーク(GW)について、かなり特異な日程となることがやや気掛かり。ご承知のように具体的には4月27日(土)から5月6日(月)まで、実に10連休となることが確定している。ただ、当然のように、GWで10連休になるのは本邦勢だけ。東京以外、ロンドンやNYといった欧米市場はもちろん、シンガポールなどのアジア市場もオープンし、取引は行われる。経験則にみても、東京などが休場で参加者が減退する際の市場は乱高下しやすい傾向があり、しかもそれが長期的な連休になるのであれば尚更だろう。幸か不幸か、10連中のうち「4月」という括りに含まれるのは、29日と30日の2日だけだが、前段で指摘した「経験則からみた過去の4月相場パターン」がヒョッとすると当てはまらない危険性を指摘する声も早くも聞かれるなど、今年に限ればあまり決め打ちをしない方がよい気もしている。(了)

◆◆◆
当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。